

歴史から人間社会を語る ～ 知恵に学ぶ ～

2023年5月6日、7日は、高野みどり先生(春日部がん哲学外来メディカルカフェ & 野田がん哲学外来メディカルカフェ 代表)の企画で放送大学埼玉学習センターでの面接授業『がん哲学外来 ～ 言葉の処方箋 ～』に赴いた。

5/6 (土)

樋野興夫 『がん哲学外来とは』(14:05～15:35)

5/7 (日)

樋野興夫 (9:50～11:20)

『天寿がんの時代に向けて』

樋野興夫 (11:35～13:05)

『ゲノム時代と発がん研究』

樋野興夫 (14:05～15:35)

『楕円形のこころ』

であった。筆者は、テキストは『がん哲学』(EDITEX 発行)を用いて、第1章『がん細胞の世界から人間社会を語る』、第2章『がん細胞の知恵に学ぶ』を音読しながら進めた。多数の質問もあり、大変有意義な充実した貴重な講座の機会となった。『放送大学がん哲学サークル COCON』(代表:茂木佐知子氏)のチラシも貼ってあった(添付)。大いに感激した。

2023年4月29日の講演会『北総がんカフェ in 佐原 & 小見川:樋野興夫先生 特別講演会～なぜ、がんカフェをはじめたのか?』でのパネルディスカッションのパネリストの小林みどり氏(浄土真宗のお坊様)に、【『空海(774-835)、最澄(767-822)、法然(1133-1212)、親鸞(1173-1263)は、聖書を読んでいたか? 空海(真言宗)、最澄(天台宗)は遣唐使として留学していた。空海は新約聖書、最澄は旧約聖書を日本に持ち帰ったのか? 遣隋使の時代の聖徳太子(574-622)の『17条憲法』、親鸞の『歎異抄』には聖書的な言葉もありますね!?!】とさりげなく質問したものである。2023年5月7日小林みどり氏から【西本願寺に『世尊布施論』という漢訳された聖書が保管されている?らしい。親鸞聖人も読まれたかもしれない】との連絡を頂いた。大いに感動した。『親鸞記念がん哲学外来・カフェ』が実現する予感がする。歴史的大事業となるろう。

がん哲学サークル COCON 会員募集中

日本人の2人に1人が何らかのがんにかかり、
がんの治療を受けながら生きていく時代となり
ました。
医療が進歩しても、患者やその家族の不安は
変わらずあります。その不安に寄り添い、
がん患者やその家族を支える活動に
参加してみませんか？
当事者の方のご参加も歓迎です！
お気軽にご連絡ください。

2019年12月に埼玉学習
センターで開催された磯
野興夫先生の公開講演会
がきっかけで、放送大学
内でもがん哲学カフェを
開催しようと2020年に
発足したサークルです。

Find us on 



連絡先：
gantetsu.cocon.ouj2020@gmail.com
(代表 茂木佐知子)

サークル名の「COCON」とは
「アットホームな心安らぐ場所」という意味
合いをもつフランス語cocon de douceur
ら名付けました。
COCONは「繭」という意味で、がん哲
フェをアットホームな心安らぐ場所、
むような守られた雰囲気のある場所に出来
るという願いが込められています。



入会申し込みフォーム
(Googleフォームを使ったWEB申込書です)

